

《担当者名》薬学部教授／二瓶裕之

【概 要】

本科目では歯科衛生士に必要となる情報通信技術(ICT)や数理・データサイエンス・A Iを活用する知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切な判断と解決のできる学術的・実践的能力を身につけることを目指す。特に、数理・データサイエンス・A Iが示唆する分析結果が何を意味するのかを考えながら、それを主体的に使いこなせるようになることを目指す。また、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上も目的として、協働で課題を解決することを体験しながら、自らの専門領域を発展させる能力を身に付けられるようにする。

【学修目標】

- 歯科衛生士に必要となるコンピュータ、インターネット、数理・データサイエンス・A Iの活用方法を概説できる。
- レポートや論文などの定型文書の作成方法を説明できる。
- コンピュータを使ったプレゼンテーションの方法を説明できる。
- ネットワーク社会におけるモラルや著作権に配慮したインターネットの利用と活用方法を説明できる。
- SGDとPBLにおいてはクラウドを活用しながらメンバー相互が協働して課題を解決し、その結果をまとめて発表することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	数理データサイエンスA I (1)	・情報処理演習の授業の流れや評価方法について説明できる ・数理・データサイエンス・A Iの概要について説明できる ・googleフォームを使って講義ノートを送信できる 【基礎演習(1～4回)】(1回目) 数理・データサイエンス・A Iの概要についての事前講義を踏まえて、問題解決のための基本的な枠組みを知る演習課題を4回にわたって段階的に解く	
2	数理データサイエンスA I (2)	・googleドキュメントを使ったディスカッションができる ・A Iの医療への応用についてディスカッションができる ・インターネットを使った情報検索ができる 【基礎演習(1～4回)】(2回目)	
3	プレゼンテーション(1)	・プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 ・Smart Art(概念図)の利用方法を列挙できる ・アニメーションの設定方法を説明できる 【基礎演習(1～4回)】(3回目)	
4	プレゼンテーション(2)	・オリジナルの原稿からキーワードを抽出できる ・キーワードと概念図を組み合わせたスライドを作れる ・オリジナルの原稿の内容に沿ってプレゼンテーションを作成できる。 【基礎演習(1～4回)】(4回目)	
5	データ処理、データ集計、データ分析(1)	・Googleフォームの作成方法を説明できる ・Googleフォームで送信、受信、回答の確認ができる	

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		指定されたテーマに沿ってgoogleフォームで質問紙を作る 【SGD（5～6回）】（1回目） 定められたテーマに従って、クラスの学生に対してアンケート調査を実施して、調査結果をまとめる	
6	データ処理、データ集計、データ分析（2）	- Googleフォームで集めたデータを集計できる - 表計算のフィルタリング機能の使用方法を列挙できる - クロス集計機能を使ったデータの収集方法を列挙できる 【SGD（5～6回）】（2回目）	
7	情報セキュリティとモラル（1）	- ネットワークセキュリティについて概説できる。 - 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。 - クラウド型のフォームを使ったアンケート調査ができる。 【PBL（7～8回）】（1回目） 10名程度のグループで、「総務省の情報セキュリティサイトにある事故や被害の事例」に関わるアンケート調査を行い、その結果を踏まえて「インターネットを安全に使うためにはどうしたらよいのか？」という問いに対して多面的な視点をもって討議をして、最適な対応策を見つけ出す	
8	情報セキュリティとモラル（2）	- クラウド型のフォームを使ったアンケート調査ができる。 - アンケート結果を分析しながらグループで討議ができる。 - 討議の結果を文書にまとめることができる 【PBL（7～8回）】（2回目）	

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業で作成する課題（SGDとPBLの回には討議の参加態度）の評価を30%、定期試験による評価を70%とする。

【教科書】

二瓶裕之・西牧可織著 「北海道医療大学 医療系学部生のための情報リテラシー2024年版」 丸善

【学修の準備】

・学教科書で該当する章を事前に読んで内容を理解しておくこと、また、北海道医療大学MediaDEPOシステムには該当する章の事前学習用ビデオがあるので予習において活用すること（80分）。

・情報処理室やCALL教室、もしくは、自分で所有しているパソコンを利用して事前学修の項目を確認したり、授業で作成した課題を再度作成するなどの事後学習（復習）を行うこと（80分）。

・SGDやPBLでは、事前に具体的な調査資料を配布するので、個々で調べて授業に臨むこと(80分)。授業終了後は、グループ討議の結果を自分なりに振り返り、授業中に作成したプロダクトを再度作成するなどの事後学修（復習）を行うこと(80分)。